

1 情勢報告

こうち型集落営農推進協議会を開催しました



所長挨拶

3月11日、芳生野営農生産組合の代表者、津野町、JA津野山と振興センターが出席して、こうち型集落営農推進協議会を開催しました。

振興センターから22年度事業実績を報告し、モデル集落である『芳生野営農生産組合』から3年間の取り組みの成果報告が行われ、今後の取り組みについて意見交換を行いました。

モデル集落では、事業を活用して、担い手を育成・確保していける協業経営の仕組みづくりに取り組み、組織体制、生産基盤などが整ったところです。

今後、振興センターでは、組織目標実現に向けた生産活動等に助言・情報提供等を行っていきます。また、この経験を活かして、管内全域での集落営農推進に取り組みます。

津野町直販所の組合員に春まき野菜勉強会を開催しました。

勉強会の様子
(西区)

津野町内の3直販所に出荷している組合員を対象に、春まき野菜の勉強会を行いました。同町内は東区(旧葉山村)と西区(旧東津野村)で400mの標高差があることから、地域性を考慮して東区は2月24日、西区は3月10日に開催しました。

当日は、振興センターがまとめた主な春野菜の過去の出荷状況を参考に、津野町アドバイザーが出荷の集中をさけるための栽培時期・品種を説明しました。また、津野町が地域アクションプランでの事業導入の進捗状況などを説明しました。振興センターからは農薬使用上の注意をしようえで、点検シートによる作業の振り返りを出席者全員にしてもらいました。

振興センターはこれからも津野町直販所に対して情報の提供など農作物生産への支援を行っていきます。

JA四万十管内大野見地区農業改良普及推進会議（営農協議会）を開催しました



2月22日、中土佐町大野見地区農家代表、JA四万十、中土佐町の委員さんに集ってもらい、平成22年度活動実績、平成23年度の活動計画について報告、協議しました。また、平成23年度普及指導計画の概要についても説明しました。JA四万十からはJAとしての集落営農支援策等を提案してもらいました。

「大野見米のブランド化」の課題では、特別栽培を増加させ、販売体制を支援する計画を進めるよう意見が出されました。

集落営農の課題では、関係機関と農業者が一緒に考え、集落に入っていく、話し合いをしていくことを共通認識しました。

振興センターではいただいた意見等を今後の普及活動に活かして行きます。

1 情勢報告

J A土佐くろしおミョウガ部会の現地検討会が開催されました。



現地検討会の様子

J A土佐くろしおミョウガ部会では、「まとまりのある園芸産地育成事業」による第3回目のミョウガ現地検討会を池ノ内地区で開催しました（3月2日）。

まもなく収穫期に入る現地ほ場では、寒く乾燥が続いている冬季から春季にかけての今年の気象条件に対応した灌水や温度の具体的な管理がほ場主から紹介され、参加者28名で栽培管理を検討しました。

振興センターからは、ハダニに対する天敵やハスモンヨトウに対する交信攪乱フェロモンなど実証試験結果から体系化したIPM技術を紹介し、促成作型への導入を呼びかけました。

今後もJ Aと連携して、現地検討会などで新技術の導入や収量アップを支援していきます。